### 　　　　　　　　　　　　【座間味村】

端末整備・更新計画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 |
| 1. 児童生徒数
 | 0 | 　　75 | 0 | 0 | 0 |
| 1. 予備機を含む整備上限台数
 | 0 | 86 | 0 | 0 | 0 |
| 1. 整備台数（予備機除く）
 | 0 | 75 | 0 | 0 | 0 |
| 1. ③のうち基金事業によるもの
 | 0 | 78 | 0 | 0 | 0 |
| 1. 累積更新率
 | 0% | 100% | 0% | 0% | 0% |
| 1. 予備機整備台数
 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 1. ⑥のうち基金事業によるもの
 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 1. 予備機整備率
 | 0% | 14.6% | 0% | 0% | 0% |
| （確認事項）・児童生徒数は、中学校3校、小学校3校の児童生徒の合計とする。生徒数の推移予測をもとにこの人数とした。・予備機については、国の補助金上限の15％を最大で活用するものとする。（端末の整備・更新計画の考え方）　更新予定は、86台となっており、令和2年度に86台整備している。児童生徒数は、今後の入学予定人数をもとに計画を立てているが、増減に合わせて、調整する。（更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について）〇対象台数：86台（更新予定の台数と合わせる）〇処分方法・幼稚園やその他教育施設での使用　30台（予定）　　・村役場内における事業での使用　　20台（予定）・その他（サポート切れまで学校で継続して利用する）　36台（予定）〇端末のデータの消去方法　※いずれかに〇を付ける。・自治体の職員が行う・処分事業者へ委託する |

【座間味村】

ネットワーク整備計画

１．必要なネットワーク速度が確保でき

ている学校数、総学校数に占める割合（％）

　「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」（文部科学省・令和５年11月実施）の結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和６年４月）を超える学校数は２校であり、総学校数に占める割合は６７%である。

２．必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（１）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

　　本村においては、ネットワーク監視の委託事業者、契約しているネットワーク事業者及び校内LAN保守運用を行っている事業者と連携し、日常的なネットワーク監視及び、通信状況の確認を行っており、学校での使用時の速度低下や回線以上の場合にはその都度対応を行っており、今後も継続して使用環境の維持に努めるとともに、自然災害等による不測の事態に対応できる環境の整備を検討する。

【座間味村】

校務DX計画

　これまで、デジタルソフトの導入、校務支援グループウェアの導入を行うとともに、オンライン会議システムを活用する等校務の効率化を進めてきたところである。

今後、更なる校務DXを推進するためにゼロトラストに基づくセキュリティ対策を講じた上での校務系・学習系ネットワークの統合を図り、端末の一台化を進め、

　**1.コミュニケーションツールの活用**

　　校内での事務連絡等や個別の連絡にチャットを有効活用することで、いつ、どこにいても即時共有が可能となる。また電話で行っている教育委員会と学校現場の連絡手段としても活用し、互いの都合の良いタイミングでの対応が可能となり、業務時間の削減に繋がる。

**2.クラウドツールの活用**

　学校における資料の共有、保護者への情報発信や収集のデジタル化を継続して進めるとともに、成績や指導要録の管理での活用も検討することで、災害時等における資料損失のリスク軽減にもつなげる。

**3.校務DXチェックリスト**

　校務DXチェックリストの項目は、標準仕様のクラウドツールで十分対応可能となっており、クラウドツールの校務での利活用の促進を図るための教育委員会の研修や校内研と連携した研修の充実を図っていく。

　　**4.FAX・押印について**

　　　FAXや押印については、各小中学校教諭との間で検討会を立ち上げ、文書管理規程の見直し、コミュニケーションツールでの代替及びシステム等の導入検討を行う。

**6.校務での生成AIの利活用について**

　校務での生成AIの利活用を図る。まずは、日常の公文等の文章の添削、要約、学校アンケート等の分析活用。先生方の授業や授業外でのアイディア出しなど、先生方が校務で慣れるから活用までを想定し、研修会等も計画に実施していく。

**7.次世代校務支援システムの導入に向けて**

　沖縄県教育委員会と連携し、次世代校務支援システムの導入に向けて連携を図り、校務DXの推進を図っていく。

**8.外部人材の活用**

教育DXフェローの設置を検討し、専門家からの助言等を参考の上、離島におけるハンデの解消に取り組む。

### 【座間味村】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒が納得するやり方で進めていく。また一人で学ぶに時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、友達と対話を通し、またクラウド上で友達の考えを参照し、感化される場面等が想定される。

　座間味村教育大綱の施策において、「島の宝！子供にやさしい地域づくり」のなかでICTを活用した先進的な学校教育の推進が掲げられており、これまで以上に、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

２．GIGA第１期の総括

　コロナ禍で、オンライン授業等を通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google Workspace、Teams等を利用した校内での資料の共有や情報を共有する仕組みも一定程度定着し、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

　一方で、学校間や担当する教諭によって利活用の差も出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、１人１台端末を活用した実践が不可欠である。先進的な取組を行う学校の見学や、外部講師によるミニ研修等の充実、校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広げていくことが必要とされている。

３．１人１台端末の利活用方策

　今回の端末整備・更新にあたり、教育DXフェローの設置を検討し、外部専門家の助言による更なる端末を活用した授業の充実と教職員の校務効率化、研修機会の充実を図り、クラウド環境の活用を促進する。これにより、授業内外での端末活用をさらに拡大し、児童生徒の学びを豊かにすることを目指す。

1人1台端末の日常的な活用に向けては、国の動向や県の動向を踏まえつつ、新しい授業観に合わせた理論的な研修を充実させる。端末の活用はあくまで手段であり、目的は児童生徒の学びを深めることにあるという理解を深める。

具体的には、探究の学習過程や問題解決のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表）を通して、端末の活用を促進する。学習者主体の授業では、児童生徒に委ねる場面が増え、学習形態も一斉型から個別型へと変化します。そこで、教科の学習においても探究の学習過程を取り入れ、各過程で児童生徒が1人1台端末を活用できる場面を増やしていく。

児童生徒は、自己の課題に合わせて、教科書、資料集、NHK for schoolなどの動画、Webサイトなどから必要な情報を収集し、1人1台端末で整理・分析する。その際、友達と対話し、協働する。また、クラウド上で友達の考えを参照しながら学習を進める。整理・分析後は、友達と対話し、思考を整理します。必要に応じて、友達や先生と意見交換を行い、学習内容をまとめていく。

1人1台端末の活用による学びの保証に向けては、不登校児童生徒への支援については、オンライン授業の実施、GoogleClassroom、Teams等で授業資料を共有する。校内では、コミュニケーションツール等で連絡を密にして校内での体制を強化していく。

さらに、電子図書館の導入等により、離島地域の条件的不利の解消を行い、これまで以上に活字に触れる機会をつくり、子どもたちの想像力や発想力を育んでいく。

外国児童生徒に対する学習活動等の支援では、Google翻訳や翻訳ツール等のアプリケーションも有効活用しながら学習活動を活かしていく。また、生成AI等も活用し、文書作成の支援や教師側の提示資料の作成等にも役立てていく。

　障害のある児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に応じた支援については、手書き入力でのテキスト変換機能、音声入力を活用したテキスト入力など支援の状況に応じた必要な環境を整え、支援の充実を図る。

利活用の方策や実践を推進するためには、県内外の先進地域の授業視察を行い、その取り組みから学び、自校の実践に活かしていきます。

沖縄県教育庁県立学校教育課教育DX推進室との連携による研修支援や授業改善、文部科学省学校DX戦略アドバイザーやGIGA StuDX推進チームによる研修支援・授業支援なども計画し、1人1台端末の活用を促進していきます。